

あすを拓く

漁業の町女川で、ギター産業を興す――。
 仕掛け人は、大手楽器店に勤めた元セールスマン。
 東北で生まれた新素材と伝統技術を取り入れた
 斬新なエレキギターが、この春デビューする。



株式会社セッションナブル

代表取締役
 梶屋 陽介さん

プロフィール
 1983年鹿児島県出身。大学進学のため上京し、卒業後は東京・御茶ノ水の大手楽器小売店でギター販売に従事する。東日本大震災を契機に東北での楽器、音楽に関わる支援活動始める。2014年楽器店を退職し、国産ギター製造事業を立ち上げるため宮城県に移住する。現在は女川町在住



自社オリジナルのエレキギター「ソード」。第一弾モデルとなる同製品は「音と表現の革新」をコンセプトに開発され、梶屋さんの音と国産ギターへのこだわりが詰まっている

2016年12月、女川町で新しいエレキギターの1号機が披露された。国内の材料と技術を集めた独創的なデザインが光るギターは、日本刀（sword）のような鋭さと木（wood）の温もりにちなんで「ソード（SWORD）」と命名された。「これまでにない革新的なギターを作るため、素材にも音質にもこだわり抜きました。圧倒的なクオリティをもってユーザーの心をつかみたいと思っています」
 そう語るのは、ギターを手掛けた株式会社セッションナブルの梶屋陽介さん。鹿児島県種子島出身で、2年前に女川町でギター製造事業を立ち上げた。
 「まさか東北の女川でギターを作るとは思ってもいませんでしたが、ここで始めたからこそ、こんなに早く事業を進めることができました」と梶屋さんは話す。

「世界最高峰の工業デザイナーとして尊敬していたこともあって、最初から決めていました。山形県出身の方だったことは、偶然だったんです」
 こうして東北に縁のある素材や技術、人々の力によって、アイデアを形にすることができたことに不思議な縁を感じている。この春の本格的な出荷を目前に迎え、工房にはすでに注文の予約が入っているという。それでも梶屋さんは冷静に話した。

「本当の地域貢献は、ギターの生産が軌道に乗ってからです」
※現在の岩手県大船渡市から宮城県気仙沼市までの沿岸部一帯に住む、優れた技能を持った大工集団



「仙台のショップと女川の工房にて、製造から販売まで一貫して自社で行う」と話す



音の響きを左右する本体の木材には北海道産材を選定
 職人が一つ一つ丁寧にギター製作に打ち込む
 やすり掛けをして仕上げた本体には、ネックや弦などのパーツが取り付けられる

均一化が進むエレキギター市場 震災を機に被災地での起業を決意

「エレキギターは、70年近くほぼ同じデザインと構造で作られてきました。このような工業製品は珍しいと思います」
 そう感じるようになったのは、東京の大手楽器店で働いていた頃だった。多い時は月100本以上のギターを売っていた梶屋さんは、生産者から「ギターは儲からない」という声を耳にしてきたという。

「今のエレキギターはコモディティ化※が進み、安さが重視される。価格競争に陥らないような、新たな価値を生み出すギターを作ることはできないのだろうか。そう思うようになったのです」

女川で町民と意気投合 ギター工房立ち上げに向け突き進む

2014年春に知人の紹介で女川町を訪れた梶屋さんは、町長や役場の職員、観光協会や商工会のメンバーたちの前で事業プランを説明した。
 「おもしろい。やろう！」とその場で提案を受け入れた町の人々は、再建を計画していた駅前商店街の一角に工房の場所まで確保してくれた。

「みなさんの心意気と女川を復興させるという気概に満ちた姿を見て、迷わずここで事業をすることを決めました」と梶屋さんは振り返る。

製造から販売まで、一貫して自社で行う事業モデルを実行する上で、「まずは販路を確立させる方が先だ」と考えた梶屋さんは、県内の金融機関や財団を駆け回り、およそ半年かけて資金を調達すると、その年

の11月、仙台市内にギターショップをオープンした。販売の傍らで、県内を中心に高校や大学を訪問し、軽音楽部が所有するギターやベースを無償でメンテナンスした。
 「若者が音楽に打ち込める環境づくりに役立てばという思いで取り組みました。プロの目から見れば壊れている状態のまま楽器が扱われているケースが多いことに驚きました」
 こうした地道な活動が実り、ギターショップが徐々に認知されると、梶屋さんは、自社ブランドのエレキギター開発に着手した。女川町の人たちが確保してくれていた場所に工房を作り、全国から3人の若手職人を採用した。

東北の素材と技術でアイデアを形に 生産を軌道に乗せ地域貢献を目指す

「被災地の復興という情緒的な付加価値だけに頼っては、長く売れるギターは作れない」と起業を決めた当初から思っていた梶屋さんは、自分が思い描くギターを形にするため、全国の素材や技術を探った。

通常はボルトを使用する本体とネックの接合には、釘などを使わない気仙大工※に伝わる木組み技法を取り入れ、一体感を演出した。「テールピース」と呼ばれる弦の留め具には、音の伸びと厚みを求め、岩手県釜石市の企業が開発した特殊なコバルト合金を採用した。そして、ギターのデザインは、高級車「フェラーリ」を手掛けたデザイナーに依頼した。

株式会社セッションナブル

2014年11月に仙台市青葉区一番町に国産ギター専門店「GLIDE STORE」をオープン。16年2月には、女川町でエレキギターの製造工場が完成した。国産の魅力あふれるオリジナルギターを武器に、世界市場を視野に事業を展開する。2017年「SENDAI for startups! ビジネスグランプリ大賞」受賞

■所在地
 仙台市青葉区一番町 2-7-3
 TEL 022-393-4540
<http://glide-guitar.jp/>

